

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 12月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200627		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・八木		
所在地	〒731-0101 広島県広島市安佐南区八木一丁目10番10号 (電話) ① (082) 830-2588 ② (082) 830-2117		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200627-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者それぞれの個性を大切に、運営理念である「安らぎとよろこびのある日々を、その人らしくいつまでも」を基本として思いやりのある温かいサービスを提供している。また、一人ひとりの意思や能力、人生人格を尊重し入居者の思いに寄り添い、柔軟に対応できるように体制を整えている。コロナ禍で外出の機会が減っている為、体操やおやつレクなど施設内で出来る行事に力を入れるように心掛けている。職員が楽しく働ける職場作りも気を配っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営理念を基に管理者を中心に職員一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で利用者の思いに寄り添えるサービス提供を目指している。毎月の職員会議では職員同士が意見やアイデアを出し合い日々ケアの見直しや行事企画を検討することで楽しみのある生活の場となるよう取り組んでいる。例としてコロナ禍で外出が困難な中でも非日常を楽しめるよう施設内に駄菓子屋を再現し「ひなたぼっこ通貨」を用いて買い物体験を取り入れ、利用者の自己選択や自己決定に着目したおやつレクを開催している。管理者は法人代表者と共に職員が楽しく働きやすい職場環境作りに努めている。又、近隣保育園や民生委員、地域包括支援センターと共同し町内会への働きかけを行うなど、地域に根ざしたグループホームとして交流を続けている。

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、それに沿ったケアができるように努めている。達成できているかどうか職員間で評価を行い、見直しを行っている。	施設理念である「安らぎと喜びのある日々をその人らしくいつまでも」の下、ユニット毎に目標をたてデイルームへの掲示や申し送り時の唱和を行うことで共有している。毎月の職員会議で日々のケアを振り返り、目標達成に職員同士で評価を行っている。	個人目標の設定と達成状況に対する振り返りを行い、全職員がスキルアップを図ることで事業所としての更なるサービスの向上を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、地域との関わりは一切ありませんでした。	農家から差し入れされた野菜を近隣へおすそ分けをしている。施設に提供された食材を地域に還元することでコロナ禍においても施設独自の形で地域とつながるよう取り組んでいる。又、散歩の際には気軽に挨拶をするなど日々の交流も大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為、地域との交流が一切できなかつた為、認知症の方への理解をして頂ける機会がありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、運営推進会議の開催は中止しておりますが、取組みなどの報告を文書で行い意見を頂き、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回書面報告にて開催している。民生委員、町内会、保育園、地域包括支援センターへ行事風景や事故報告、研修会の実施報告を行うことで施設内の生活の見える化を図っている。各参加者から毎回、意見徴収を行い職員会議で情報共有し対応策を検討することでサービスの向上に務めている。	運営推進会議を通じ施設の見える化が図れるよう事故報告の分析結果や対応策の開示や家族への議事録配布などの情報提供を望みます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターなどにできるだけホームの状況を伝え、随時連携をとってサービスの向上を目指している。	地域包括支援センターへ積極的に法人内の施設情報を提供している。生活保護受給者の受け入れを行っており生活課との連携を図るなど、福祉制度の円滑な利用が図れるよう行政との連携を続けている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	コロナ禍の為、外部研修には参加できていないものの、職員会議での勉強会などで具体的な行為を含め、身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持ち正しい対応に取り組んでいる。また、定期的に身体拘束委員会を開催している。	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束委員会の開催や年1回は職員会議の中で内部研修を行い身体拘束防止について職員全員が共通認識を持ち拘束しないケアを実践している。スピーチロックに注意するよう職員全員が意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議で定期的に勉強をし常に頭に入れケアにあたっている。細心の注意・防止に努めている。また、個人面談を実施し職員の悩みや相談を聞き出来るだけストレス解消にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議などで必要性について話し合うことにより、早めの対応ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ず個別面談を行わせていただき、本人・家族様とお会いし話し合いを行うようにしている。契約の前段階で必ず見学をしてもらい、そこで不安などを聞き十分な説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の為、電話にて意見などを聞けるよう努め、反映させている。この度も、家族会もおこなえていない。アンケートを実施し家族様の意見を取り入れて運営に活かしている。	利用者の意思表示を見逃すことなく日々のケアに取り組んでいる。年に1回の家族アンケートや来訪時や電話連絡にて要望を確認し、可能な限りサービス提供に反映できるよう努めている。コロナ禍で面会が困難だが白寿の祝いに家族写真が撮れるよう法人代表者と協議を行い実践した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや職員会議、また普段から時間のある時に職員から話を聞く機会を持ち、反映させている。平均30分程度の個人面談も実施している。会議等で意見しやすい環境を作るよう努めている。	今年度より法人本部から働き易い職場作りに関するアンケートが実施された。毎月の職員会議で意見交換を行っている。ホーム長は会議の際には職員が意見を言い易い雰囲気作りを務めている。職員同士のコミュニケーションを目的に親睦会の回数を年2回に増やした実績もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれに役割をつけるようにしている。また、資格取得に向けた支援や、目的意識を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの今必要なことを把握し、指導するようにしたり、内部研修に参加してもらっているが、コロナ禍の為、外部研修は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、ホーム長会議はオンラインで行われる為、なかなか交流が難しい。同業者と電話での意見交換やそれぞれの施設での悩みなど共有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配事など考慮しながら、信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望や不安などを十分な時間を取りいつでも話せる機会を設け、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族の必要としている部分をできるだけ見極め対応している。必要時には他のサービス利用も検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人がしたいこと、できることを見極めながら役割を持ってもらっている。尊敬する気持ちを忘れず一方的な行動を慎みともに助け合う気持ちを大切に接している。コミュニケーションをとり、日々の不安等、普段の会話からくみ取るようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>コロナの為、面会制限を行うようになってからは、電話にて家族との情報交換、また相談などできるだけコミュニケーションを図り、関係を築けるよう努めている。コロナ禍で面会の制限があるが、利用者家族の絆を大切にするためリモートによる面会やガラス越しでの面会を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍の為、馴染みの人に会う機会が減っているが、手紙やプレゼントを送ってきてくださる方もいる。またそれを利用者も喜ばれている。</p>	<p>家族の協力を得ながら馴染みの散髪店やお墓参りなど、感染状況を確認しながら取り組んでいる。又、日用品の買い物を家族に依頼することで面会の機会を作り繋がりを継続するよう働きかけている。利用前からの新聞購読を続けることで配達員との関係が途切れないよう支援に務めている例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の人間関係に配慮し、孤立しないよう、席の配置や、食事作り・作品作りなどのレクを通じて関係性に偏りができないように努めている。また、職員が間に入り、作品作り等行うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	コロナ禍の為、病院のお見舞いや、施設への面会ができないが、契約終了後にも電話にて家族との関わりがある。また、いつでも相談に応じれる体制をとるようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中や様子などから一人ひとりの変化に気づき、本人の希望や意見にできるだけ沿えるようにしている。困難な方は、家族に相談するなどし対応している。気付いた事は職員間で共有し、意向に沿えるように努めている。	日常の会話など利用者と過ごす時間を大切にし個々の思いや希望を把握するように努めている。食べたい物、してみたいことは誕生日会のメニューやレクリエーションに取り入れている。又、日々のケアの中から利用者の強みに着目し漢字や計算ドリルなどを通じて利用者同士の交流を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に今までの生活歴など伺い、個人ファイル等に記録を残し確認するなど状況を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりのできることを見極め、できることをしてもらおうよう、これまでやってきたことの継続ができるよう努めている。また、それぞれの状態・状況を常に意識し、記録の確認や把握に努め対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	普段の業務や毎月の職員会議、また本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。	本人、家族の意向を基に計画作成者が職員からモニタリングやアセスメントを行い、医療情報を加えケアプランの作成を行っている。情報共有の為、ケア内容を一覧表にすることで日々、実施状況を確認し、目標達成に向けて取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の方毎の個別記録に、気づきや本人の主張などを記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換や、対応、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別に散歩に行ったり外出の機会を設けている。コロナ禍で面会の制限があるが、家族とオンライン面会やガラス越し面会を実施したりとその時の状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、近隣の方々、又ボランティアなど来ていただく事ができず、地域資源を活用することはできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時や往診時、また必要時に相談をしたり、指導を受けられるようにしている。	利用開始時に本人、家族の意向を確認している。協力医への変更は医療提供状況を説明したうえで変更している。月2回の往診や訪問看護時に日頃の状態や医療に対するニーズを報告し協力医、訪問看護ステーションと24時間の連絡がとれる体制を設けており、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から訪問看護師や、かかりつけ医の看護師に相談するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前・入院中に相談員や医療関係者、家族などと密に連携を取り、情報交換や相談を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合を想定し、家族に契約時や早い段階から話し合いを行っている。その意見をもとに主治医や看護師、職員と今後の対応について決定するようにしている。	契約時に「重度化した場合の指針」を説明している。常時、医療行為が必要となった際には家族、職員、主治医と話し合い、適切な対応ができる医療機関へ繋げられるよう支援している。又、利用開始時に重度化や終末期ケアを想定し介護施設への入居申込みの支援を行った例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AED講習を行ったり、緊急時の対応等職員会議にて定期的に再確認、職員周知を行っている。年2回防災グッズの確認。食料の賞味期限確認を行い、避難時に持って行く物や避難場所の確認等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受けている。コロナ禍の為地域の方には参加して頂いていない。また、実際に水害時の避難誘導も行った。	年2回日中、夜間を想定し避難訓練を行っている。消防署と共催し訓練を実施し助言や提案を受けている。土砂災害の経験を基に災害マニュアルを作成し職員全員に周知をすることで垂直避難や備蓄食料、防災グッズの購入など具体的な対策の立案につなげることができている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を保ち、プライバシーを配慮した声かけや一人ひとりに合った言葉遣い、対応などを心がけて行っている。	内部研修を行うことで利用者一人ひとりの人格を尊重した呼称、声掛け、言葉遣いを職員全員が高い意識を持ち、日々のケアに務めることができている。職員間の会話や申し送り時は名前ではなく、部屋番号を用いることでプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態や能力に応じ、できるだけ自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のやりたいこと、出来る事を職員間で共有し、できる限り本人の希望に応じて一人ひとりのペースで過ごせるよう支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容に来て頂き散髪をしてもらっているが、コロナ禍の為、回数は減っている。その日に着る洋服を自分で選べる方は、ご自分で選んで頂いている。整髪や髭剃りなどおしゃれに気を付けて頂けるよう支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物をうかがって調理したり、調理の下ごしらえや片付けなど一緒に行っている。季節行事では、旬の食材を使い、料理を作るようにしている。誕生日会では本人の食べたい物を提供している。また、出前の機会もあり、お好み焼きやお寿司が好評である。	利用者が献立、調理、盛り付け、片付けにできる範囲で参加している。盛り付けや季節の食材を使用することで食事を五感で楽しめるよう支援している。又、日々の会話から利用者の要望を聞き取り行事食に取り入れるなど、利用者の思いを反映する支援に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養を考えしっかり摂取できるよう献立を決めている。また、適宜水分が摂れるようこまめに提供するなど支援している。食事量に不安のある方については主治医の指示のもとエンシュアリキッドの摂取をして頂いている。水分を摂りたがられない方には工夫をして水分摂取していただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、入れ歯の洗浄も実施している。また、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケアや指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態や状況に応じて排泄パターンを把握し、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行っている。必要に応じて排泄チェック表を利用し声掛けや介助を活かしている。</p>	<p>排泄パターンを時系列で図式化し把握することで個々の習慣に合わせた声掛け、誘導を行っている。職員会議で集めた情報を分析することで尿量に合わせたパットへの変更や失禁回数の減少など、排泄の自立につながっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分をしっかり摂って頂いている。運動や腹部マッサージも実施している。便秘気味の方は服薬などで調整している。また、排便チェックを行い、職員が把握できるようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一番に入浴したくないなど、入居者の希望を聞き、可能な限り対応できるようにしている。本人の希望でシャワー浴での対応等行っている。</p>	<p>週2～3回の入浴を基本に夏季にはシャワー浴を本人希望に合わせて行うことで入浴回数を調整するなど、個々の要望に合わせて柔軟に対応している。同日の入浴人数を一定にすることで一人ひとりのペースに合わせた入浴支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>寝具を清潔(干す・洗濯など)にしたり、居室の環境整備、室温管理を行っている。また、日中の活動量を増やすなどの工夫をしている。室内の温度の調整にも気を付けるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬ファイルあり、普段から確認を行い、変更があった場合などにも確認を行っている。状態も常に把握し、形状を変えるなど不明な点などあれば主治医や薬剤師に相談、また指導を受けるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事作りや花の世話、掃除や作品作りなどそれぞれの得意分野を見つけ、役割を持って行えるよう支援している。個別ケアを中心にレクや外出などで気分転換も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍の為、外出の機会も減ってしまっているが、本人の希望に応じて、天気の良い日には公園へ散歩に出かけたり、ドライブ等と出かけるようにしている。秋には紅葉狩りに出掛けた。</p>	<p>近隣公園に本人の歩行状態に合わせたルート設定で散歩を行い季節を感じてもらえるよう外出支援を行っている。職員で話し合いを行い、感染対策を行いながら紅葉狩りやドライブなど、非日常を感じられるよう企画、実施している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>欲しいものや必要な物などを、希望時や買物時などに本人にかわって職員が購入するようにしている。認知症の為お金をなくしてしまうことがあるかもしれないが、お金を持つことで安心感につながることも職員は理解している為、状況に応じて利用者様にはお金を持っていただけのようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望に合わせて電話をしたり、また定期的に手紙を出すなどの支援を行っている。利用者様によっては知り合いの方や家族から手紙が届くこともある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>温度調整や清掃など細かく行っている。また、季節感のある飾り付けや、展示物など利用者と一緒に工夫を行い、居心地のいい空間を作っている。</p>	<p>台所から聞こえる食事の準備の音や匂いを聞きながら家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるよう配慮している。又、採光窓を設置することで自然の光を多く取り込んだり、利用者と一緒に季節に合わせた壁面飾りを作成するなど季節を感じられる環境作りに取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室にて一人の時間を過ごされたり、気のあった入居者同士が穏やかに過ごせるよう、テーブル・席の配置の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具など持参してもらっている。また、本人好みの飾り付けや置物などで工夫されており、居心地のいい自室になっている。</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みのみでなく、利用前の家庭環境を事前訪問で確認することで本人が過ごして来た生活環境を把握し居室環境作りに反映させている。電気の明るさ調整をリモコン操作からリモコンに変更することで自己選定を促し自立支援につながる環境作りを行った例もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>椅子など利用者の状態に合わせており、手すりもつけ安全に配慮している。また、各居室に表札をつけたり、トイレなどの表示をし対応している。</p>		

V アウトカム項目(八木①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念として、「安らぎとよこびのある日々をその人らしくいつまでも」を掲げ、その実現に向け、利用者様ならびに家族様のご希望に出来る限り沿ったサービスを提供できるよう職員が斉唱し業務にあたっている。コロナの状況を見て行きつけの散髪屋やお墓参りへ職員と一緒にいった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、利用者の外出制限も必要となり思うような地域交流が行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や支援をしたいと思っているのであるが、コロナ禍の為なかなか地域交流を行えない状況が続いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で参加者が集まる事が出来ないため、利用者様の現状や実施したイベントの写真と報告書を作成し郵送し、意見を返信して頂いている状況である。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターなどにできるだけホームの状況を伝え、随時連携を取りサービスの向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束のマニュアルも作成している。職員会議の中で内部研修を行い、職員の共通認識へとつなげている。身体拘束委員会を発足し身体拘束の知識の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待や人権擁護について職員会議で内部研修を実施し、職員が理解を深めている。身体拘束委員会の実施し日々の業務に不適切なケアが行われていないか職員同士で確認をしている。さらに虐待チェックリストを実施することで、不適切なケアが行われていないか確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度を利用されている利用者様がおられる為、職員もその必要性についてや意味の理解がある。今回のコロナワクチンの接種について本人の意思決定が困難であるが、成年後見人による決定も出来ないという事態があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、必ず個別訪問を行い、家族様・利用者様と話し合いの場を設けている。入居が決定した際には、契約書、重要事項説明書を基本とし、理解、納得をして頂けるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が来訪された際や電話連絡の際に意見をお聞きして、可能な限り希望に沿ったサービスを提供するよう努めている。今年はコロナ禍の為開催はできませんでしたが、年に1回実施する「家族会」では、職員と家族様の交流の場を設けとても有意義な会になっている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスを開き、職員間の意見交換、サービスの統一・向上を図っている。職員会議は職員が意見しやすい空気作りに努め、日々の業務内容等は利用者様の思いやペースを出来るだけ酌めるよう配慮した意見がでている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員から、就労するにあたり不安や悩みを聞く機会を作り、出来る限りその解消に努めている。都度、管理者は上司に報告を行い、会社として環境を整えるよう努めている。資格取得への適度な促しやリーダーなどに昇格する機会をつくるなど、さらなる向上心や責任感などを持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	例年ではひなたぼっこ全体で行う社内研修を毎回違うタイトルで行っており、職員はその研修に参加できるような体制を取っていたり、外部研修にもできる限り参加してもらうよう計画をして行っていたが、現在はコロナ禍の為、研修の参加は中止をしている。9月からリーダー研修に参加してもらう予定はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎月ZOOM開催でのホーム長会議があり、そこでケアについての事例検討を行っている。電話などによって他の事業所と連絡を取り合い情報集を行いサービスの向上に努めた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時には、あらかじめ家族様や介護支援専門員・相談員より本人様の情報を集め、職員が利用者様の情報を共有できるようカンファレンス等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接時に利用者様・家族の思いを聞きだし、あらかじめサービスの内容に反映させている。施設の説明をしっかりと行い、理解して頂いた上で、出来る限りの不安を取り除き、要望等に対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には、介護支援専門員や家族様(キーパーソン)としっかりと話し合い、本人様のニーズに合わせたアセスメントを行い、職員が情報を共有できるよう連絡ノートを活用や毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員には利用者様の状態や心理状態を考慮した対応を行えるよう教育し、ご飯作りや洗濯物、掃除など時間がかかってたとしてもご自分でできることはなるべくしていただくよう支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様との関係については、入居時に説明を行っているほか、ケアプランの中にも、「家族様との関係の維持」という項目をいれてる。コロナ禍の為、面会制限があり利用者様も寂しい時を過ごすことが続いたが、リモートによる面会や窓越し面会の実施をすることで少しは解消できたかと思います。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でなかなか外出が難しいが、感染者数の状況を見て、馴染みの散髪へ行ったり、お墓参りに車で連れて行ったり出来ている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	定期的にデイルームの配席の見直しを行い、同じ趣味を持った方やお話しの合う方を同じテーブルにしている。入浴日や行事のことも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて家族様に連絡をいれ、退去後の生活状況を伺い、相談事があれば、話を聞き入れサポートを行うようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切にし、出来るだけコミュニケーションをとることにより個々の思いや希望を取り入れるよう努めている。正月や花見、その他のイベントの時にノンアルコールビールで雰囲気を楽しむ喜んでいただけている。編み物やぬり絵、カラオケが好きな方など柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人・家族様と面談を行い生活歴や生活環境の情報を収集している。その他、担当の介護支援専門員や相談員より情報を入手するなど行っている。日々のケアの中でも情報が得られるようコミュニケーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケアカンファレンス時に、管理者・職員間で話し合い利用者様一人ひとりの検討を行いサービスの向上・統一に努めている。リスクなど考慮しながら、利用者の身体レベルの現状維持を考えて出来ることを探して実行している。寝たきりの方の褥瘡予防・手足の運動の対応も実施している。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、家族様、関係者様の意見を出来る限り取り入れるよう、日々職員が利用者様から思いを聞き出すことに努めており、毎月のケアカンファレンス時に、管理者や介護職員が話し合いを行いその結果を家族に相談し計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	基本的にはケアカンファレンスで介護計画を立てていくが、日々のケアの中で気づいた点は細かに記録し必要があれば管理者へ報告している。申し送り時にでた課題などもその都度修正し、職員が統一したケアができるよう連絡ノートなど使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍でなかなか散歩などの外出が出来ない為、車で土師ダムへドライブへ行ったりして気分転換を図るなど実施している。コロナの感染者状況を見て馴染の散歩へ行ったりできた。ホーム内でスイーツバイキングや寿司のバイキングを実施した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、利用者の外出制限も必要となり思うような地域交流が行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間毎に、協力医の先生に往診して頂いている。事前に利用者様の状態、ニーズを報告しお薬の調整をしてもらっている。血液検査やレントゲンも定期的に行っている。体調不良時には、24時間連絡が取れる体制を設け、いつでも指示がいただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2週間におきに訪問看護の往診があり、利用者様の状態を報告している。利用者様が直接体調について看護師に相談も行えているケースもある。24時間対応なので夜間の体調不良時や転倒しけがした時に連絡を入れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を病院へFAXするか持参している。認知症の有無について最近聞かれることが多いため、どの程度の進行度かも伝えて対応してもらっている。退院時にも病院の看護師や相談と連携し、退院時の状態や内服薬、気を付けることなど聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の指針」は、入居時に家族様に説明しサインをいただいている。常時、医療行為が必要な場合は、ホーム内の対応は難しい為、協力医に相談し入院先の手配、援助を行っているようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変に備え、マニュアルを作成している。新しい職員にはマニュアルを使用し教育も行っている。内部研修で救命講習を実施し職員全てが参加するようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム内で年二回以上、夜間想定避難訓練を実施している。その際に実際に「火災通報専用電話機」を使用した訓練も行っている。その他、近年の土砂災害をうけ災害マニュアルを作成し職員に周知をしている。災害時の研修や訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係を築くため、言葉かけや呼称には気をつけている。グループホームという場所を理解したうえでの声掛けを配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	編み物や天風録・塗り絵などそれぞれが自由に日々過ごされている。レクの参加など利用者様の希望に対し出来るだけ個別対応している。食事に関してはあえてメニュー表を作らず、利用者様の希望の食事を取り入れることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のやりたいこと、出来ることをしっかりと職員が把握し、ご自分のペースで生活をして頂いている。必要に応じて声かけを行うが貼り絵、編み物、食事作りなど個々の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容師に来て頂き本人の意向でカットをしてもらっている。洋服もなるべく選んで頂くようにしている。毎朝、くしで髪をとかれたり、顔そりをされたりできている。男性は毎日朝髭剃りの声かけの支援を行っている。家族様に本人様の化粧品の購入を依頼し、身だしなみやおしゃれに支援できるようしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食ホームで作り味覚、視覚、嗅覚、聴覚などで食事を楽しんで頂くよう努めている。食材を切ったり、食事の盛り付けをして一緒に作る楽しみも感じて頂いている。旬の野菜を取り入れることで季節を感じていただくよう心がけている。握り寿司バイキングやスイーツバイキング、ソーメン流し、山菜料理など実施し楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者様の食事量を毎日記録し、毎月体重を測定し推移を観察している。食器の大きさを工夫しなるべく食べてもらえるようにしている。糖尿病の為、食事量の制限がある方についても、それぞれ職員が把握し支援を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの見守り、必要に応じて介助を行い口腔状態の保持・改善を行っている。訪問歯科にかかられている方は口腔衛生をみてもらってケアできている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄については、量、質、形状を確かめ、時系列で図式化している。その習慣に合わせてケアすることが出来ているので、失禁の回数も軽減できている。夜間については、尿量に合わせたパッドの使用やトイレへの誘導を行い、本人様の負担も軽減できている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェック表により、利用者様の個々の排泄の習慣を把握し、トイレ誘導を行う様になっている。便秘の方は、医師に相談し、利用者様に合った処方をしてもらい対応をしている。排便を促す為、毎朝ヨーグルトを提供したり、玄米茶の使用するなどお茶も工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴回数表を作成し、毎日記録することで入浴回数の把握をしている。拒否のある場合などについては、声かけを工夫し気持ちよく入浴して頂いたり、入浴日を変更するなどして対応している。ゆずや入浴剤を使用する事で変化を出している。湯船の嫌いな方はシャワー浴対応などしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>利用者様のペースで生活して頂 けるよう、個々の生活パターンの 把握に努めている。夜間の睡眠の 妨げにならない様、声かけを行っ ている。また、室内の温度にも気 を配り1日の入眠時間を大切に している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>協力医に、隔週で往診に来てら い、そのときの利用者様の状態 の変化や利用者の希望などを報 告し、薬の調整を行っている。全 利用者の最新の薬情をファイル し職員がいつでも閲覧・確認で きる環境を整えている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>利用者様の趣向に合わせて、残 存機能を保持できるよう支援す る為、日常生活で行う、食事や 洗濯物、掃除など本人の活躍で きることを見つけ、自信につな がるよう生活支援をしている。外 出の好きな方は散歩や買い出し に積極的に出してもらっている。 塗り絵など個々にあったサー ビスを行う事で楽しんでいただ いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>コロナ禍で思うような外出支 援は行えていないが、感染状況 をみながら回数少ないですが公 園まで散歩へ出かけたり、土師 ダムまでドライブへ出かけたり 出来ている。馴染みの散髪屋に いったり、お墓詣りに出かけ たりしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金を持つことで安心につな がることを職員が理解している。 認知症があるため物とられなど の症状、実際にお金をなくして しまう可能性があることを家族 様に理解してもらったうえで、 多額でない金額を持つことが 出来るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方は自分でメールをされ家族様と連絡を取り合っている。お持ちでない方はホームの電話を使用してもらうことにしている。皆さんで年賀状を作成し投函する支援を行っている。手紙が届いてその返事を書かれたり支援を行えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光に触れて頂けるよう、採光窓も設置している。壁には季節感を感じていただけるような貼り絵の作品や飾りで演出をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の個々の趣向や話の合うもの同士、生活のペース冷暖房の位置、身体レベルを職員が考慮しカンファレンス時に話し合い、ダイルームの配席は定期的な見直しを行い利用者様同士が支えあえる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活しやすいよう、出来るだけ馴染みのある家具を使用して頂き、居室の環境整備に努めている。また、家族様の要望も聞き入れ、利用者が主体的に生活が出来るよう配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ内の手すりを増設したり、広さも車椅子のまま中へ入ることが出来る。施設内では壁に手すりを設け、安全に歩行して頂けるような設備を整えることで、自立した生活を営んで頂いている。		

V アウトカム項目(八木②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・八木

作成日 令和3年12月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の個人目標の設定と達成状況の確認を行い全職員のスキルアップ。	レベルに合わせた個人目標の設定。目標は出来るだけ数値化できるものか評価しやすい目標を立てるようにする。	管理者が職員一人ひとりと面談を行い、その職員のレベルに合わせた目標の設定を一緒に考える。そして前年度にたてた目標の達成度の評価も行う。	1年
2	3	ホームの状況や運営推進会議の内容の見える化の実施。	転倒事故に対する分析結果や防止策、運営推進会議の内容が家族へ伝わるようにする。	運営推進会議で事故の報告まで行っていたが、今後は再発防止に備えた対策についても議事録へ記載するようにしその議事録を家族へ伝わるよう配布を行うかホームで閲覧できるようにする。	2ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。